

【水道水のありがたみ】

福岡県 春日市立春日野中学校 三年 半澤 陽夏太

「水道水」と聞くとどう思うだろうか。日本は水に恵まれ、皆生まれた時から美味しい水を飲むことができています。しかし私は多くの日本人が水道水よりもミネラル・ウォーターのようなペットボトル飲料を口に行っていることに疑問を抱いた。なぜ水道水を飲まなくなったのか。

水道水は明治期後半に英国の優れた濾過技術の伝達によって日本にやってきた。水道水がやってきた初期の段階では、皆蛇口で生水を飲んでいたそう。水道水は河川やダムや地下水など様々だ。なぜ日本人は水道水よりもミネラル・ウォーターを飲むようになったのか。その理由は水質保全。つまり塩素消毒にあったのだ。

大正期後半、日本で塩素を使った消毒が始まった。その頃から日本の水道水は、「塩素の匂いがする水」というイメージがついていき、同じ頃、ヨーロッパでは、生活にミネラル・ウォーターのような清涼飲料水が使われ始めたという。日本人は大正末期後半から昭和前半にかけて多くの人が外国に行くようになり、水道水が安全でない国があることを多くの人が認知するようになった。また外国では瓶詰めの水を飲む習慣があることが知れ渡ったこともあり、日本でも多くの人が塩素の匂いがしないペットボトルの飲み水を買い求めるようになってしまった。

近代では飲み水は水道水よりもペットボトルが当たり前。「美味しくご飯を食べるには水道水よりもペットボトルの水を。」とまで言われてきた。また、ウォーターサーバーなどでは「安くてミネラル豊富」などと言って宣伝している企業も多く見かけるようになった。

水道水はいずれ使われなくなってしまうのだろうか。また、ミネラル・ウォーターのような清涼飲料水に依存した生活になってしまっているのだろうか。

世界の中では15カ国しか水道水を飲むことができないという。その中に

日本も含まれている。日本の浄水技術は世界でもトップクラスである。私は、そんな技術が世界で通用する日本の水道水を使わないのは少しもったいないと思う。もちろんペットボトル飲料を飲まないというわけではない。しかし、水道水を飲むことのできない国は世界にたくさんある。川から汲んだり、濾過すらできず、そのまま水を飲んでいる国もある。そんな国の人から日本を見ると、きつと羨ましいと思う人も少なくはないだろう。日本人はもう少し水に対しての関わり方を考えていかなければならないと思う。また、水に関する環境問題や水不足問題も考えていかなければならない。国連の調査によると、世界の20億人以上の人々が安全な水を飲むことができず、25億人の人々はトイレなどの衛生サービスを受けられないという。最近では水問題も取り上げられているSDGsの取り組みが次第に広まってきており、少しずつ関心が出てきているが、それでも日本人の水との関わり方はまだまだ薄くなっている。

私は、「水道水」に対しての意識をもっと持つてほしいと思った。それはとても難しいことのように思えるが、意外と簡単なことではないだろうか。お風呂・トイレ・洗濯・炊事。皆が気づいていない間で日常生活において水道水は必要不可欠な存在になっているのだ。日本は山や川など美味しい水を汲むところがたくさんあり、さらには海水を濾過する技術もある。しかし、どの家庭でも公共の場でも蛇口をひねると水が出る。皆が皆意識して生活しているわけではないと思う。しかし、そんな日本の水道水に感謝して生活しないといけないと思う。だから私は、当たり前な水道水との関わり方をもう一度考えてほしい。